

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	91人

1. 使用状況

寄贈物品名	小型電動圧縮機
使用学年及び人数	中学部、高等部 生徒20人
使用頻度	週1回程度
使用状況	<p>昨年度と同様に、重度重複クラスの生徒が、校内実習の空き缶つぶしで使用している。</p> <p>・校内実習・・・年に2回、校外で行う現場実習前に実施。校内で空き缶の回収を呼びかけ、集まった空き缶を圧縮機でつぶし、地域の回収業者に引き渡す。トイレトペーパーと交換してもらった。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>生徒にとって、投入口に入れるという行為、また、「投入口に空き缶を入れる→大きな音がする→下から潰れた缶が出てくる」という因果関係が分かりやすい。そのため、何度か繰り返し行うことで、自分から空き缶を投入口に入れたり、投入口の上で手を開いて空き缶を落としたり、次の空き缶を自分から手に取って入れたり、積極的に取り組む姿が見られた。</p> <p>昨年度から継続して行っているため、投入口に空き缶を入れることを覚えていて、自分がどのように身体を動かして取り組めばよいのかが分かって取り組む生徒もいた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>SDGsの観点、地域との関わり、社会貢献の観点から、今後も活動を継続する予定である。自分たちのできる身体の動きで圧縮した空き缶やペットボトルなどを回収業者へ引き取ってもらい、地域社会との関わりを継続していきたい。</p>
その他希望や所感など	

2. 活用の様子



自分で缶を持って投入口に入れる生徒、教師と一緒に投入口に腕を伸ばしてから自分で缶を離して入れる生徒。缶を投入口に入れることが分かり、自分でできる方法で行いました。

つぶした空き缶は回収業者に引き取ってもらい、トイレトペーパーと交換してもらいました。自分たちがつぶした空き缶がトイレトペーパーになり、達成感を得るとともに、学校のために貢献することができました。

